

# 国際都市川崎をリードする 人材を育てる 川崎附属中がいよいよ始動

2014年  
7月8日  
取材



夏休み明けの供用開始を目指し工事が進む新校舎。グラウンドに建設された仮校舎には、無線LANをはじめ新校舎と同様の学習環境が用意されています。入学から3カ月、倍率7・1倍の激戦を勝ち抜いた1期生120名はどのような学校生活を送っているのでしょうか。

## 何事にも積極的な1期生

「期待していた以上に生徒たちは、学習に行事に積極的に取り組んでいます。一人1台のタブレットPCも使いこなしていますね」とうれしそうに語るのは和泉田校長先生。また植村教頭先生は、「おだやかで人なつこい子たちです。そして自分たちで学校を作っていくんだと、何事にも前向きです」。

1期生は4月に2泊3日の自然体験教室へ。6年間ともに学ぶ仲間との連帯を強めクラスの仲間との交流を深めました。そして5月にはとどろきアリーナで中高合同の体育祭。学年縦割りの8ブロックに分かれ高校生と一緒に汗を流しました。その高校生、感心したのは、皆が元気な大きな声であいさつしてくれることです。1期生にとっても頼りになる優しいお兄さんお姉さんの存在のようです。部活動はその高校生と合同で行われますが、中学生は18時までが活動時間。11ある部活動の中で、「一番人気」はソフトテニス部だそうです。

## 注目の「一人1台PC」は？

川崎附属中では生徒一人ひとりが専用のPCを持ち、授業やeラーニングに活用する先進的な学習を行っています。タブレットにもなるキーボード付きのノートPCは、ペン入力や動画撮影もできる多機能PC。校内のサーバーに学習履歴が保存され、生徒も先生も確認することができま。朝と放課後に15分ずつ設けられたeラーニングでは、生徒が自主的に学習内容を決め、取り組んでいます。和泉田校長先生は「英語・数学に取り組む子が多いようです。校内どこでもできるので、落ち着いて取り組みたい子は空き教室を使ってやっています。また授業ではグループ学習にも使いますし、先生が生徒個々の課題に応じた課題を送信して問題に取り組むこともしています。先日の理科実験ではブルーの飛び様子を動画で撮影し、それをクラスで共有して繰り返し見ながら学習を進めていました」。

校内には生徒がPCで作った新聞や理科実験レポートが掲示されています。PCを活用した学習には、多くの可能性がありそうです。植村教頭先生は「PCは自宅に持ち帰ることができるので、授業と家庭学習をどう効果的に結び付けていくか、生徒の様子を見ながら今後も研究を続けていきます」。

公立中高一貫校共通の課題が、入学後の特に数学の学力差です。川崎附属の取り組みはどのようにでしょう。

## 「嫌い」を作らないきめ細かな学習指導

公立中高一貫校共通の課題が、入学後の特に数学の学力差です。川崎附属の取り組みはどのようにでしょう。

## 30人4学級編成のアットホームさ

男女別の募集を行わない川崎附属中、1期生120名の6割強が女子です。「やりにくさや不自然さはありません」と植村教頭先生。来年度も同様の募集です。

県内公立中高一貫校で最も少ない1クラス30名の少人数体制。授業でも先生の目がしっかりと行き届いていることがうかがえます。1期生120名の、豊かな学びの6年間は始まったばかり。「ICT活用」「体験・探究」「英語・国際理解」、3つのキーワードのもと、生徒は国際都市川崎をリードする、たくましい人材へと成長していくことでしょう。

## 生徒保護者の皆さんへ 川崎市立川崎高等学校附属中学校 校長 和泉田 政徳 先生

本校には6年間かけてじっくり学び、自分の夢を見つけ、その実現に向けておおいに学び続けていける環境が用意されています。そして、皆さんの夢と一緒に実現していこうとする先生方が皆さんを待っています。学習面はもちろん学校生活すべてにおいて、自分から進んで何かをしていこうという気持ちを持った子どもたちに、ぜひきてほしいと思います。皆さんの「やる気」と「根気」で、この環境を最大限生かしてください



「嫌い」を作らないことを第一に考えてきめ細かく指導しています。英語・数学はクラスを2つに分けて15人の少人数クラス授業を基本としています。朝と放課後のeラーニングの時間を使って個別補習を行うこともあります」と和泉田校長先生。

英・数・国は週5時間授業の川崎附属中。数学は「中学数学内容+αを2年間で履修できる(教材紹介文)」。中高一貫校用の「ニューマイスター」を使用し、英語ではALT(外国語指導助手)とのチームティーチングを基本に展開、「パワーポイント」を使った英語による自己紹介など、ICT活用を掲げる川崎附属中ならではの授業も行われています。また6月の英検受検者には英検対策も実施、35名の受検者全員が合格(4級・3級1次)したそうです。

## 総合学習「LEADタイム」

県立中等では「かながわ次世代教養」、南附属中では「EGG」と、公立中高一貫校ごとに特徴がある総合学習。川崎附属中では「LEADタイム」と呼び、定着期(中1・中2)では「農林漁業体験」、充実期(中3・高1)では「川崎文化・産業学習」、発展期(高2・高3)では「最先端技術学習」に取り組みます。

「アクアラインで1時間弱で行ける君津の農家とタイアップし、枝豆の露地栽培と校内でのプランター栽培を行います。農業を切り口に世の中を見ていく中でテーマを見つけ、掘り下げる学習を期待しています」と植村教頭先生。教室には「枝豆はなぜ幅広い世代に好かれているのか」「特産品の歴史、作る過程」など班ごとの学習テーマ

## タブレット型PCを活用した授業とICTスキル

「コラボノート」というソフトを使い、自分の意見を付せんにはるように入力。他の生徒の意見が画面で見られる。動画や写真も使えるので理科の実験観察レポートなども簡単に作れる。過去のデータも見られる



「コラボノート」というソフトを使い、自分の意見を付せんにはるように入力。他の生徒の意見が画面で見られる。動画や写真も使えるので理科の実験観察レポートなども簡単に作れる。過去のデータも見られる



■2泊3日の自然体験教室の様子を新聞に ■学校説明会案内を作成して母校へ送付

## 未来をLEADする人材を育てる かわさきLEADプロジェクト

※学校案内パンフレットより中萬学院作成

**L**earn 学ぶ

- 中1では毎日英・数・国・授業
- 1コマ45分授業7時間の時間数
- 体験型学習、課題解決型学習による思考力・判断力・表現力養成
- ICT機器を用いた分かりやすく個に応じた授業展開

**E**xperience 体験

- 総合的な学習の時間の充実による、体験活動を通じた探究的な学習や国際理解教育の推進
- 課題発見と情報収集、情報の整理・分析とまとめる能力の育成

**A**ction 行動

- 中高協同の生徒会活動・学校行事などを通して、自分で判断し行動できる人材の育成
- 学習発表会や研究発表を通じた、生徒の自己実現の応援

**D**ream 夢

- 大学の研究施設等との連携や、社会人講話、事業所体験などを実施し、生徒の夢実現をサポート
- 社会観や職業観を育成するためのキャリア教育の充実

## 社会で活躍するための3つのキーワード

体験・探究    ICT活用    英語国際理解